

令和3年度第1回滋賀県立病院経営協議会委員評価結果について

開催日：令和3年9月29日（書面開催）

○第四次中期計画における令和2年度の実施状況に係る評価

【自己評価】

	顧客の視点	財務の視点	内部プロセスの視点	学習と成長の視点
総合病院	B	A	B	B
小児保健医療センター	B	C	A	C
精神医療センター	B	B	A	D
経営管理課	B	B	B	B

【経営協議会委員評価結果】

顧客の視点	財務の視点	内部プロセスの視点	学習と成長の視点
B	B	A	B

（参考）評価基準

評価	内容
S	数値目標達成度 120%以上
A	数値目標達成度 100%以上～120%未満
B	数値目標達成度 80%以上～100%未満
C	数値目標達成度 60%以上～80%未満
D	数値目標達成度 60%未満

○第四次中期計画における令和2年度の実施状況に対する委員からの意見、質問等

1. 意見

顧客の視点
<ul style="list-style-type: none">・ 医師の交代に患者が戸惑う場面がある。なるべく短期間での医師の交代は避けることが重要だと感じる。・ 総合病院の検査の充実において、PCR 検査や抗原検査を導入されており、県民としてとてもありがたい。今後の検討としておられる、時間外や土日の検査対応については、コロナの感染状況に応じて実施していただけると、より安心できるとともに、感染の早期発見につながっていくと思う。・ 総合病院の健康情報の提供について、現在は新型コロナウイルスの影響のため、資料を HP に掲載する形で対応しておられるが、動画配信されても良いと思う。・ 小児保健医療センターにおいて、びわ湖あさがおネットへの利用登録者数が飛躍的に増えており、コロナ禍にもかかわらず、紹介率・逆紹介率も上昇していて、地域の医療機関との連携がとて強化されてきていると思った。・ コロナ禍において、総合病院では病床利用率が目標値を上回ったことは良かったと思う。・ 「がん医療の充実」「あらゆる疾患への対応」については Covid-19 への存在によって、どのような機能を果たしたかの評価が大きく変わってくる。病院長の専門分野や滋賀県立の大規模公立病院として、Covid-19 への対応が顧客からは大きく期待されていたと思われるが、記載を見ると、市中の慢性期対象の小規模民間病院と変わらない記載である。地域差もあるのだろうが、滋賀県は緊急事態宣言の対象にもなったのだから、上記対応の検討評価をさらに明確化されたい。
財務の視点
<ul style="list-style-type: none">・ 県立総合病院の平均在院日数 14.5 日は提供している医療の内容からすればやや長いと思われる。12 日程度になると、入院単価は 70,000 円を超えるはず。DPC の入院期間を意識した患者の退院転院を進めるよう病病連携を図る必要がある。今の状態で地域包括ケア病棟を廃止した場合、平均在院日数が更に延長することが懸念される。・ 小児保健医療センターの新規入院患者数について、手術・入院の抑制や診療控え等新型コロナウイルスの影響が大きく出てしまっており、第5波では子どもの感染者も多くなり、今までより大変であったのではないかと推察する。感染者が減少しても以前と同じ生活に戻れるかどうかまだ分からないため、ウィズコロナでの病院経営を模索する必要もあると思う。・ 経営管理課の医薬品調達について、全国的に医薬品の値引率が低下しているとのことなので、価格交渉とともに医薬品の在庫管理を徹底してみてもどうか。適切な量の仕入を行うことにより、費用削減に繋げられるところもあるのでないかと思う。・ コロナ確保病棟への補助金で改善したと思われるが、一過性のものであり、これをもって改善して良好な評価を得られるものではないと思われる。あくまで臨時収入であるので、分離しての財務評価は必要ではないのか。
内部プロセスの視点
<ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルス感染症対応に対して、また、コロナ禍の中でも各病院が、成果を上げるよう取り組まれてきた。・ 総合病院一階ロビーに診療所のパンフレットが設置されているが、電話番号等簡単な情報だけなので、もう少し具体的な内容（例えば、がん患者さんの在宅診療をしている）が載っていればと感じる。また、表紙に診療科が一目でわかる工夫があればと感じる。・ Covid-19 診療にあたる医師・看護師らの疲弊度などの分析が不十分である。・ 総合病院となった以上県民の救急医療を更に充実すべきだと考える。

学習と成長の視点

- ・精神医療センターの「D評価」や小児保健医療センターの「C評価」について、コロナの影響により、目標とされている実績が低くなったと思われる。重要優先事項となったコロナ感染対策等の職員教育には努力されたと思うので、各々評価を上げてもいいのではないかと。
- ・総合病院における研修への取組について、コロナ禍で大変な中、必須研修参加率が前年度に比べて増加し、ほぼ目標に達しており素晴らしいと思った。
- ・精神医療センターの職員向け研修について、総合病院でされているメール配信視聴講習会のような開催方法を参考に、コロナ禍でも開催できて職員が参加しやすい形で対応をされると良いと思う。
- ・コロナ禍の影響が大きい様子が見て取れ、例年と同じ環境での評価は難しいと感じた。
- ・Covid-19で何を学び、今後、どのような役割を果たしていくか、ビジョンが見えない。抜本的に第6波あるいは将来同様の疫病流行時の役割等検討しておく必要があるのではないかと。

その他

- ・新型コロナウイルス感染症対応には、3病院それぞれが全職員一丸となり、尽力されてきたことに感謝と敬意を表す。通常医療の上に、感染病床の確保や検査体制等の整備、感染対策に対する職員の教育、外部への看護職員含め医療従事者の派遣等、様々な取り組みがBSC評価で見えないことが残念。
- ・3病院の医療提供においては、「滋賀県保健医療計画」の県立病院の機能充実や5疾病5事業、在宅医療、認知症、感染症、リハビリテーション等との関連性も重要と思う。看護においても、5疾病5事業、その他の事業において専門的な看護提供のために、各領域の専門看護師や認定看護師を育成され、その人材活用やチーム医療においても重要な役割を發揮され質の高い医療・看護提供に努力されていると思う。それらの取組が反映されるよう、今後の計画策定に期待する。

2. 質問

顧客の視点		
対象	質問内容	回答
総合病院	<p>総合病院の医療安全の啓発と事例分析の活用について、評価がDになっており、インシデント・アクシデントレポートの医師からの提出割合が前年度を下回ってしまっている。以前原因について質問したところ、治療が優先されるため報告に至らない可能性があるとのことであった。治療が優先されるのは当然で、医師の時間も限られているので、速報版と詳細版に分けて、まずは速報版の提出を求めるなど、レポートの提出を簡単に行えるように提出方法を変更する等の対応はできないのか。</p>	<p>医師のレポート提出増加対策として、以下のとおり取り組んでおります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師に対して、インシデント・アクシデントレポートを提出すべき基準を周知し、医療安全について啓発しています。 2. 医師のレポート第一報は、速報版として簡潔な内容に変更し、提出の徹底に努めております。詳細版については、報告医師・診療科科長医師・医療安全管理室が事実確認し、追記しています。 <p>※医師の報告数は、令和3年度上半期において、令和2年度年間報告数を上回り、増加傾向となっています。</p>
総合病院	<p>総合病院において QI の C と入院患者満足度の A の関係は如何なのか。</p>	<p>QI は日本病院協会の主催するプロジェクトで、「自院の診療の質を知り、経時的に改善する」ことを目的に、本院も参加しております。</p> <p>臨床指標の中に入院患者満足度も含まれていますが、あくまで40ある指標のうちの1つに過ぎず、QI 全体で見ると平均値を満たしていない項目も多くあるのが現状です。</p>
総合病院	<ol style="list-style-type: none"> ① 新規入院患者数の全体数があるが、疾患別のデータはないのか。 ② 「QI プロジェクトに参加し令和元年度のフィードバックデータを掲載…」とあるが、どういったことなのか。 ③ HP に令和2年度病院指標がアップされているが、乳腺センターなどを見ると古いデータが挙がっていて、反映されていない。患者が病院を探し、決定するポイントの一つとなりえるので、データ更新と患者が知りたいデータの掲載が重要と感じる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 退院時の疾患別患者数についてのデータはあります。HP 上では、『年報』や『病院情報(DPC)の公表』に掲載しています。 ② 本院は平成28年度から日本病院会主催のQI 事業に参加しており、日本病院会で取りまとめられたデータがフィードバックされ、そのデータをもとに参加病院平均値との比較を行うことで、平均値以下の項目について改善を進め、医療の質の向上を図っています(令和2年度については作成中)。 ③ HP の病院指標は各部門で随時更新しているのですが、ご指摘のとおり一部更新が滞っている箇所があるため、進捗状況を確認のうえ、順次最新の情報へのアップデートを進めて参ります。

小児C	<p>コロナで面会禁止が続いているが、患者にとってはとても不安だと思う。特に小児保健医療センターのお母さまなどはどのようにされていたのか。どんな工夫をされていたのか。</p> <p>(当会 HP で実施中のアンケートには面会することが多く寄せられている。一方、看護師さんの優しい対応に救われたという声も多く寄せられている。)</p>	<p>当センターでは、滋賀県の最も厳しいステージの間は、原則面会禁止としておりましたが、子どもの発達過程や精神的に面会が必要と医師が判断した時には、面会者の体調確認を行ったうえで、個別に面会の調整を行っておりました。また、面会禁止の間は、病棟のプレイルームで窓越しの面会ができるので、個別に時間調整を行い、対応しておりました。他にも、オンラインによる面会なども検討いたしました。病室での利用は、機器との電波干渉の課題があり断念しました。</p>
財務の視点		
対象	質問内容	回答
経営管理課	<p>各病院、経常収支比率は 100%以上ではないのか。</p>	<p>令和2年度決算における総合病院の経常利益は205百万円となり、経常費用における経常収益の割合を表す経常収支比率は101.1%となりました。</p> <p>しかし、小児保健医療センターおよび精神医療センターについては、新型コロナウイルスの影響による受診控え等患者数の減少などがあり、赤字決算となりました。そのため、経常収支比率も100%を下回っています。</p> <p>3病院の経常収支比率が100%以上となるよう、今後も効果的効率的な病院運営に努め、経営基盤の強化を図ることで収支改善に努めて参ります。</p>
経営管理課	<p>医師や看護師確保に給与は関係していないのか。</p>	<p>【医師】</p> <p>医師については、大学医局からの医師派遣が中心であり、医師養成機関である大学への働きかけが医師確保対策の主な取組となります。</p> <p>その際には、医師にとって魅力ある病院であることが重要ですが、大学の理解と協力を得るためには、給与よりも、県立病院の使命やビジョンを明確に示すとともに、当庁で働く医師が、医療提供を通じて知識や経験を積み重ねることができる病院であること、医師にとって働きやすい環境が整っていることなどが重要であると考えています。</p> <p>また、臨床研修医の確保にあたっては、研修医教育の充実が最も重要であり、こうした点を強化することにより、医師にとって魅力ある病院とな</p>

		<p>るよう努めています。</p> <p>【看護師】</p> <p>看護師については、これまでの当庁採用者や当庁看護師採用選考受験者を実施したアンケート調査等の結果では、教育体制や病院の雰囲気、給与などが病院を選ぶ主なポイントとして挙げられています。</p> <p>給与面では、医師だけでなく、看護師に対しても初任給調整手当を支給することにより、一定の給与水準を確保しています。</p> <p>また、教育体制の整備・充実を図るとともに、積極的な実習の受入れや、病院見学・病院説明会など募集活動の充実を図り、必要な看護師を確保できるよう努めています。</p>
3 病院共通	<p>外来・入院患者が減っていると思うが、コロナ前の状況に戻す方策は何か取っているのか。</p>	<p>【総合病院】</p> <p>令和3年4月から救急科を設置し、救急応需体制の充実を図ることにより、湖南圏域の二次救急の輪番に参画し、新たに救急専門の医師を配置するなど、救急受入体制の確保に努めています。</p> <p>また、市立野洲病院に続き、済生会守山市民病院と協定を締結することにより、近隣医療機関との関係を深め、地域連携の強化と機能分化の推進を図っています。</p> <p>【小児保健医療センター】</p> <p>発達障害、アレルギーや眼科などニーズの高い診療科で診療枠の拡大などを図り、新規患者の確保に努めました。また、10月からは、外来診療枠を改編し、新規患者の獲得に努めているところです。引き続き、患者のニーズに応じた医療を提供していきます。</p> <p>なお、今年8月からは、にじ病棟（40床）をコロナ病棟（16床）に転換したため、そら病棟（60床）を最大限稼働させ、医療の提供を行っています。</p> <p>【精神医療センター】</p> <p>精神医療センターにおいては、外来診療は予約制をとっており、コロナであっても堅調に推移しました。</p> <p>入院患者については、現在もコロナ病床を確保し</p>

		ているため、コロナ前の状況に戻すことは難しいですが、従前と同様に、緊急入院に備えて空床の確保に努めています。また、個室化した病床を活用し、病床利用率の向上に努めています。
総合病院	総合病院において、病床利用率 70.8%、医業収益 10 億円減となっているが、時間外はどうなっているのか。	時間外手当は平成 31 年度が 671 百万円、令和 2 年度が 655 百万円で約 16 百万円減となりました。 本院は、コロナ患者の受け入れを始めた令和 2 年 4 月以降、診療制限を実施していることから、患者数の減や一部病棟の閉鎖等により、時間外勤務が減少したものと考えられます。
内部プロセスの視点		
対象	質問内容	回答
小児 C	小児保健医療センターの職員満足度の向上において、医師の満足度のみ低下しているが、主にどういったことが要因なのか。職員にとって働きやすい職場を整備し、優秀な医師を確保することは病院経営にとって非常に重要なため、対応できる要因があれば検討していく必要があると思う。	令和 2 年度は、前例のないコロナ対応にあたり、市中の感染状況や患者の症状に即応させたマニュアルに基づく診療方法の変更や PCR 検査の実施等により業務が増したことが主な要因であると思われます。引き続き、働きやすい職場環境を構築し、より良い病院づくりを目指してまいります。
学習と成長の視点		
対象	質問内容	回答
総合病院	日々進歩している最新のがん治療を臨床に生かしてほしいと患者は思っている。学ぶ機会、発表する機会を持てる余裕がある勤務体制なのか。	本院では、がんの種類別にテーマを決めて、様々な職種の立場から、がんへの取組を紹介するセミナーを定期的で開催しており、職員の発表の場や学ぶ機会としています。 例年は外部講師を招き、最新の情報を学べるセミナーも開催していますが、令和 2 年度はコロナの影響で開催できませんでした。 そのような状況にあり、昨年度は ACP、がん薬物療法、ロボット支援手術についてのセミナーを院内で開催しました。 また、より良いがん診療を目指し、活発に議論する場として、がんグラウンドセミナーを開催し、各部門若手やメディカルスタッフによる発表会を実施しました。 外部の学会等への参加についても、積極的に情報収集できるよう、助成制度等を整えています。

<p>経営管理課</p>	<p>看護師確保等はどうされているのか。</p>	<p>当庁では、必要な看護師を確保するために、次のような取組を行っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の積極的な受入れ 2. 病院見学や病院説明会の開催 3. 看護学生向け就職情報サイトへの情報掲載、同サイト運営者主催の病院合同説明会への参加 4. 看護学校や看護協会が主催する就職説明会への参加 5. 近畿圏の主要な看護学校への訪問 6. 看護師募集パンフレット・ポスターの作成・配布 <p>令和2年度は、コロナ禍で学生との接触機会が減ることを踏まえ、病院動画の作成・配信、ZOOMを活用した3病院合同説明会の開催により、Webを活用した情報発信を強化しました。</p>
<p>総合病院</p>	<p>総合病院について前年度看護師数 520 名で離職率 4.9%となっているにもかかわらず現在数 497 名となっているのはどういうことか。</p>	<p>現在数が誤っており、正しくは 502 名でした。したがって、評価も A に変更になります。</p> <p>なお、令和2年度の離職者数は 25 名で、年度当初看護師数は 502 名、年度末看護師数が 495 名であることから、離職率（離職者数／期首・期末の平均人数）は 5.0% となります。</p>